



Fishing in Canada Catrina Cairn

Canada's motto is "From Sea to Sea." Canada has the largest coastline in the world. It touches 3 of the 5 oceans of the world. It has over 2,000,000 lakes and rivers, with 1/5th of the world's fresh water. Sea life is Canada's 2nd largest export. But Canada made some mistakes protecting this resource. Let's look at what happened.

Canada was the world's 7th largest exporter of seafood for 500 years. Canada had the "world's most productive fishing grounds" in the 1960s. The most popular fish was cod. In the 1950s very large boats came. These large, modern boats caught 200,000 kg of cod every hour.

The fish could not reproduce fast enough. In 1975 Canada said foreign boats could not fish there. In 1990 the cod disappeared. In 1992 Canada made cod fishing illegal. 40,000 people lost their jobs that day. Because of the cod, Canada became one of the first countries to have fishing laws. Canada became very interested in protecting its fish for the future. No one can fish in Canada without a license. There are laws for where people can fish, what people can fish, when people can fish, and how many fish they can take.

Canada became very interested in aquaculture (fish farming). Today there are fish farms all over Canada. Canadians are trying to have codfish farms because even today there are not enough cod and we want to fish and eat them again in the future.

Canada works with many countries to protect fishing resources. We do not want to see other fish disappear. Today we need to protect our fish resources so we can keep using them in the future.

カナダの漁 カトリーナ・カイラ

カナダ建国のモットーは「海から海へ」。世界一長い海岸線を持ち、5大洋のうち3つの海と接する国カナダ。湖と川も200万以上あり、世界の淡水の5分の1にもなります。輸出では海産物が国内2位なのですが、水産資源の保護には失敗してきました。どんなことがあったのでしょうか。

500年もの間、カナダは世界7位の水産輸出国で、1960年代には、世界一豊かな漁場でした。タラが一番人気でしたが、'50年代に近代的で巨大な漁船が現れ、毎時20万キログラムものタラを漁獲しました。

自然繁殖は漁獲量に追いつきません。1975年、カナダは外国船の漁を禁止。1990年にはタラがいなくなり、'92年、カナダはタ

ラ漁を違法とし、その日4万人が職を失いました。タラのせいで漁に関する法律を作った初めての国になりました。未来のための魚の保護に強い関心を持った国で、今では許可なく漁はできません。漁場、魚種、漁期、漁獲量に至るまで法律があります。

カナダは養殖にも強い関心を持ち、今では至る所に養殖場があります。タラは今も十分に漁獲できないため、将来漁をして食べられるように養殖を試みているのです。

また他の多くの国とも協力して水産資源を保護しています。他の魚も絶滅しては困りますからね。将来にわたって活用できるように、みんなで水産資源を保護しましょう。

(訳:宮地晶子)

【ちょっと豆知識】宮地晶子

5大洋という言葉が出ました。「えっ、海って7つじゃないの?」と戸惑いましたが、社会科の先生いわく、海は「太平洋、大西洋、インド洋の3つ」だそう。これに北極海と南極海を足して5大洋ということでしょうか。ちなみに「7つの海」は、時代によって指し示す海が違ってくるそうです。どちらかというと「7つの海を股にかけ」というように、「世界中」を表す「海賊」のイメージですね。

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第151回

クールジャパン

先日、おもしろいテレビ番組を見ました。「訪日外国人に好きな日本食をたずねる」というもの。寿司、天ぷらと思いきや、「餃子」に「カレー」に「コンビニのおにぎり」と答えはさまざま。北海道関連では、「ポテトサラダ」や「ホッケの開き」が人気だそう。ジャガイモを同じようにつぶしたもので、日本人は仕事が丁寧でおいしいらしい。つくづく日本食はバラエティー豊かで、私たちは幸せですね。

さらに驚いたのは、NHKテレビの「Cool Japan〜発掘! カッコいいニッポン」という番組。私が見た回はクールジャパンどころか「カッコ悪い日本」について。いわく「きれいな字を書く日本人はダサい」。英国、オランダ、アルゼンチン、韓国、フランスなどの国の人が意見を言っていました。

「きれいな字にこだわるのは日本人だけ」なんて考えたこともありませんでした。「字は個性だから、子どもにきれいな字を書け、なんて言ったことがない」、さらには「きれいな字を書く、というのは体制にこびているようでおかしい」など…。目からうろこことはこのことか、という感じです。

そういえば最近、「東京大学に入る人は字が汚い」という説があるとか。毎朝、字の練習をしているのに字がきれいにならない私。大層なコンプレックスでしたが、もしかしたら端から問題ですらなかったのかも! まったく異なる文化の人と理解し合うのがいかに驚きの連続か、そしておもしろいものか、と思ったのでした。会話のきっかけに周りの外国の人に尋ねてみませんか。